平成27年度　学校評価総括表　　伊丹市立天王寺川中学校

教育目標	夢と誇りのある生徒の育成　～授業・行事・部活動の充実～
重点目標	①朝読書を徹底するなど読書に積極的に取り組ませる。②あいさつを定着させ、規則正しい生活習慣の確立を図る。③部活動を活性化し、体力・気力の向上を図る。 ④学校便り等を充実することにより、天中の教育を積極的に説明する。⑤PTA主催の活動に積極的に参加することにより、PTAとの連携を密にする。

項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 ・週末課題を習慣化させる。	・終礼学習・放課後学習・土曜スクールを行い基礎基本の定着を図る。 ・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。 ・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。 ・課題の点検を確実におこない週末課題の習慣化を図る。	・土曜スクールの参加人数を平均50人以上にする。 ・授業はわかりやすく楽しいと感じる生徒の割合を75%以上にする。 ・ICT機器の使用回数を月に100回以上にする。 ・家庭学習をする習慣がある生徒の割合を75%以上を目指す。	C	・土曜スクールの参加者を50人以上にする。（今年度は目標の半分であった） ・「わかりやすく楽しい」の値が去年より3.5%下がった。 ・ICTの使用率は目標を大きく上回った。ICTを利用教員及び教科が偏っているので、利用者・利用教科を増やすことが課題である。 ・家庭学習習慣は、昨年度より2.5%上がったが、目標値には達していない。1年生の週末課題を定着させることが課題である。	・保護者に土曜スクールがある旨を伝える手紙を該当週に配ったり、学年ホワイトボードの有効利用したりするなど、周知徹底を図る。 ・同学年の同教科で事前に内容を向上させるための打ち合わせを充実させる。 ・教科部会で教材の工夫を検討する時間をとる。 ・ICTの使い方に関する研修を行う。 ・全教科における生徒の状況をつぶさに把握し未提出者をなくす工夫を行う。 ・保護者への連絡を常に行う。	・土曜学習実施時間帯に部活動を実施しないなど、生徒が土曜学習に参加できる環境整備を願う。 ・教員の資質の向上及び授業改善に取り組み、生徒にとって魅力ある授業を展開することを期待する。 ・ICT機器のさらなる効果的な活用を進めてもらいたい。 ・家庭学習の定着・習慣化のための保護者との連携を期待する。
	学習規律の確立	・チャイム席を徹底する。 ・学習環境の整備を進める。 ・よく聴く姿勢を育む。	・学習委員会を中心にチャイム席の徹底を図る。 ・清掃の徹底を美化委員会を中心に呼びかける。 ・話を目と耳と心で聴けるように呼びかける。	・チャイム席を守れている割合を90%以上にする。（A評価は50%以上にする。） ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合を75%以上にする。 ・「人の話を聴く姿勢が出来ている」割合を85%以上にする。 （A評価は40%以上にする）	B	・委員会の働きかけでチャイム席、清掃の意識も高まっており、数値目標を達成した。一方授業や清掃の取組状況は不十分な面もあり今後質の向上が求められる。 ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合は目標を達成した。 ・「人の話を聴く姿勢ができている割合」は4.4%上がり目標値並となった。今後はA評価目標の達成を目指す。	・授業者が授業終了時に片付けと次の授業の準備の声かけを行う。 ・担任が毎日机の中の整理と毎時間の準備を呼びかける。 ・終礼後に担任（と生徒）で机の整理ができているかを確認する。 ・「挨拶後に着席の姿勢を握り拳一つ分空ける程度まで椅子をひかせる。おへそを黒板に向かせる。足の裏で床をつかむようにする。」を徹底させてから授業を開始する。	・新1年生では、小学校と中学校との規律等のギャップに悩まないような配慮が必要である。 ・チャイム席から発展し、授業間の休み時間を次の授業の準備に当てるなど、効果的な取り組みを進めてもらいたい。 ・学習規律をはじめ、公共心や規範意識を備えた生徒を育成してもらいたい。
	読書活動の充実	・朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。	・質の高い読書を目指すために、国語科と図書委員と読書指導員の連携を図る。 ・R1グランプリで表彰することで読書により前向きに取り組ませる。	・月に平均2冊以上読書する。	B	・前年より読書冊数は上がり、平均2冊以上を達成した月が半分以上であった。毎月達成できるよう努める必要がある。 ・図書室の貸出冊数が増えているが、貸出冊数が実質の読書量に繋がっていないことが課題である。 ・図書委員による読書啓発活動が活性化してきた。 ・個人・学年によって読書の意欲に差がある。	・国語科を中心として、読書意欲を高める取り組みを進める。 ・朝読書の本に図書室の本を活用したり、学級文庫の入れ替えの頻度を上げたりすることで、貸出冊数および読書量を増やす。 ・読書指導員との連携を密にする。	・読書冊数の増加は一定評価できる。今後さらに読書量を増やし、国語力の向上につなげてもらいたい。
豊かな心・健やかな体	生徒指導	・組織的な生徒指導に取り組む。 ・問題行動の予防に努める。 ・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校の予防に努める。	・学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。 ・地域のパトロール回数を増やす。 ・年に2回、教育相談週間をもうけ実態把握を行う。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。 ・連絡なしに登校していない生徒はすぐに連絡し、様子を確認する。 ・職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。	・地域のパトロールを月1回は行う。 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」という生徒の割合を90%以上にする。 ・不登校生の割合を全体の2%以下にする。	C	・研修会前など全職員の集まる機会に周知を図っている ・地域のパトロールを月平均2.78回行っている。参加する職員に偏りがある。 ・「学校へ行くのが楽しい」は83.5%、「学校行事は楽しい」は93.5%であった。行事については楽しめているが、日々の学校生活では満足度が低い。 ・不登校生の割合は全体の3.87%となり、昨年より2%上昇している。	・学期初め・締めの職員会・学年会で、学期締めの報告と最初の注意事項の確認をする。 ・地域のパトロールも年間計画を作成し、皆が参加できるようにする。 ・3学期に学校独自にいじめアンケートを行い、生徒の実態把握に努める。 ・進級後に欠席がちになる生徒が多いことから、年度当初新旧の学級及び教科担任を中心とした綿密な引き継ぎを行う。	・生徒の学校生活面・風紀面等、非常に良くなってきている。問題行動も沈静化し、落ち着いて授業を受けることができている。 今後は、次の段階の課題を共有し、組織的な生徒指導に取り組んでもらいたい。 ・生徒は学校、家庭、地域が連携して育まれていく。地域とのさらなる連携強化を図ってもらいたい。 ・別室指導の体制等、整ってはいるが、不登校の減少は見られない。不登校の減少及び未然防止に努めてもらいたい。

	道徳教育の充実	・「心の教育」を推進する。	・道徳を中心に教育活動全般で相手を思いやる心を育む。 ・「朝のあいさつ運動」を実施してあいさつの定着を図る。	・「自分を大切にすることや、ほかの人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を80%以上にする。 ・「あいさつをきちんとできている」生徒の割合を80%以上にする（A評価で50%以上にする）。	B	・学校全体としては目標以上の数値になっているが、学年により格差がある。 ・目標の数値をかなり越えているが、自主的にあいさつできるレベルに到達していないことを自覚できていない。	・小さい出来事も学年生徒全体で共有して考える方向で指導していく。個々の事例をきちんと指導し、Dを3%以下にする。 ・あいさつを含め、社会で通用するマナーのあり方を意識させるよう指導していく。	・登下校にて生徒の顔が上がり表情も良い。教員も生徒もしっかりとあいさつができている。このようなことは、当たり前のことではあるが、習慣化をさらに進めてほしい。 ・道徳の教科化に向けてしっかりと準備していく必要がある。
	健やかな体の育成	・規則正しい生活習慣の獲得を図る。 ・部活動の活性化を図る。	・早寝・早起き・朝ごはんを生徒・家庭に呼びかける。 ・教師の専門性を活かしたり、外部コーチによる指導を行う。	・規則正しい生活習慣を80%以上の生徒ができるようにする。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を85%以上にする。	B	・規則正しい生活習慣ができている生徒の割合は74.8%であり、目標に少し足りていない。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合は全体で90%近くある。2年生が少し低くなっている。	・早寝・早起き・朝ごはんという項目を分けた方がよい。もしくはカットするかどれかに特化すべき。 ・スマートフォンの正しい使用方法をはじめとして、規則正しい生活を呼びかける。 ・現状維持できるように生徒の成長過程に合った課題を与え、充実した活動にする。	・学校によるスマートフォン等についてのルール化に頼らず、家庭においてのルール作りが必要である。家庭への啓発を積極的に行って欲しい。 ・スマートフォンについて、部活動単位でのルールを検討してはどうか。 ・部活動は教員も熱心に指導し、生徒もよく頑張っている。
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校評価の充実を図る。	・学校ホームページの積極的な更新をする。 ・学校便りを月4回以上発行し、ホームページ上でも閲覧できるようにする。 ・学校評価アンケートをホームページで公開する。	・学校ホームページを月10回以上更新する。 ・学校便りを月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。 ・学校評価結果を学校運営に反映しやすくするため、年2回アンケートを実施する。	C	・ホームページの更新は目標を達成できなかった。昨年度と比べ大幅に減少した。（H26 4～2月 226回　H27 4～11月 52回） ・学年ごとの更新があまりされていない。 ・学校評価アンケートを2回実施した。	・ホームページ担当を広報と分ける。 ・ホームページ担当が責任をもって、何か取り組みがあるごとに更新する。 ・学年通信もアップロードする。 ・学校評価をグラフ化しわかりやすくする。	・ホームページ等を通して、家庭への情報提供はなされているのか。ホームページ作成に係る学校組織等の見直しが必要ではないか。 ・学校評価を活用し、常によりよい学校を目指し改善して欲しい。
教職員の意識改革と資質の向上	教職員の意識改革	・わかる授業を追求する。 ・地域・保護者との連携を図る。 ・校内外で研修に努める。	・公開授業等を通してわかりやすい授業を追求する。 ・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。 ・校内外の研修で資質や指導力の向上に努める。	・1年に1回以上の公開授業を行う。（期間中に必ず1回は参観） ・校内外の研修に平均10回以上参加する。	A	・公開授業は全員1回以上行っているが、参観者が少ない。 ・PTAの主催行事・地域の行事などに、多数の教師が参加している。 ・研修会参加の目標は達成しているが、広める機会の設定ができていない。	・公開授業の日時は、教科ごとに全員が参観できるように設定する。教科任せではなく、参観者を設定して行う。（見回り教師版） ・研推で検討し、職員会後に報告の場を設定する。	・地域行事に参加する教員に偏りがあるように感じる。教員であるなら、地域の行事などに積極的にかかわっていく姿勢を全員持って欲しい。 ・研修会に参加したなら、報告をペーパーに起こし、教員間で共有することにより、資質の向上を図って欲しい。

学校関係者評価総括

学校は落ち着いて教育活動に取り組める新たな段階に入っており、そのことに伴い変革の時を迎えている。落ち着くと生徒・保護者から求められるものも高くなる。今後は、わかる授業、楽しい授業、学び合い高め合う授業の構築を念頭に置き、今まで以上に、自ら考えて行動する力、基礎・基本の学力やそれを応用する力、社会人として必要なコミュニケーション力などを身につけさせる。労働環境やメンタルヘルス面にもきちんと取り組み常に元気で前向きな教師集団であって欲しい。

次年度に向けた重点的な改善点

①自分を知り自ら考えて行動できる生徒を育成するための道徳教育、生徒指導の充実と不登校未然防止の取り組み強化。
②学び合い、高め合う生徒を育成するためのアクティブラーニングやICT機器の活用を取り入れた授業改善による魅力ある学校づくり。
③コミュニティスクール実施を踏まえた地域との連携の在り方の推進。

自己評価の基準　A：目標を上回った　B：目標どおりに達成できた　C：目標をやや下回った　D：目標を大きく下回った